

## 支援事例

商工会名	熊本市北部 商工会	氏名	野村宗靖	情報開示の可否	可
支援テーマ	事業再生・再チャレンジ	題名	事業再構築補助金事業実施後の伴走型支援補助金を活用したフォローアップ支援事例		
	販路拡大・販路支援				
	事業承継				

### <支援企業の概要>

事業所名	(株)ベルポ化粧品	従業員	4 人	創業/ 会社設立	創業日	1973年4月1日
業種	製造小売業	うち家族従業員	0 人		業歴	51年11ヶ月

#### ○企業概要

当社は1973年創業以来50年以上にわたり、植物系素材を中心とした肌と健康に優しい化粧品を販売している。代表者は76歳と高齢になり経営から距離を置いており、運営はマネージャーが行っている。昨年、事業承継計画書を作成しており、計画書に基づきマネージャーが事業を承継する予定である。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対面販売が困難になり売上が減少した。経営の立て直しのため、以前より構想にあった食品製造小売業に事業再構築を活用して新たに参入しており、体の中から美しくなりたいとの思いから「酵素玄米」を令和6年8月から販売を開始している。

今後は、「からだとお肌と心がよるこぶ」をコンセプトに50年間、美を追求した会社として美容に関する商品を提供する企業として展開を考えている。

#### ○支援のきっかけ（相談内容）・支援前の課題

以前から持続化補助金支援や専門家派遣などの伴走支援を行っており、令和6年度事業再構築補助金を活用して新たに食品製造小売業の分野に進出が決定していた。そのような中、当商工会では令和6年度伴走型補助金を活用して「FOOD Style Kyushu」出展支援を計画していたため、商工会の方から事業再構築実施後のフォローアップ支援のアプローチを行った。

社長の夫が調理師免許を持っていたこともあって食品製造に関するノウハウは当社内部にあったものの、販路先の構築ができておらず、販路開拓が急務であった。

また、伴走支援を実施していく中で、昨年度に事業承継に関する合意書を締結していたことがわかり（経営カルテには情報がなかったためヒアリングによって判明）、内容を精査したところ重大な懸念事項が見つかったため、当初の支援予定にはなかった事業承継に関する支援も実施することになった。

#### （支援課題）

事業再構築補助金活用後事業計画の再検証・マーケティング販路開拓支援・事業承継伴走支援

#### （短期計画）

イベントや展示会出展による販売先の確保

#### （中長期計画）

生産体制の向上・事業承継計画の検証や見直し

#### （現状分析）

- ・強み：50年以上続く固定客を獲得
- ・弱み：顧客の高齢化
- ・機会：オーガニック・健康食品に対する関心度の高さ
- ・脅威：酵素玄米は市場飽和状態にある

#### ○支援内容および支援後の状況・効果

##### 1 支援内容

支援内容は大きく2つに分かれる

（フェーズ1）経営発達支援計画に基づく支援

（フェーズ2）事業承継合意書に関する支援

詳細については以下のとおり

(フェーズ1)

伴走型支援補助金を活用して専門家派遣による事業計画の見直し及び知識の習得及び販路開拓支援を実施

- (1) 事業計画策定支援  
支援手段：集団セミナー1回  
支援内容：事業計画策定セミナー
- (2) 事業計画策定後支援  
支援手段：個別相談会4回  
支援内容：事業計画書の見直し、事業の課題抽出
- (3) 事業計画策定後フォローアップ支援  
支援手段：個別相談会3回  
支援内容：マーケット分析・商談会指導・デザイン指導
- (4) 販路開拓支援（10月以降実施予定）  
出展展示会等：くまもと物産フェア、よかモン、FOOD STYLE出展支援  
支援内容：バイヤー交渉指導・ディスプレイ指導・接客指導



【伴走型補助金を活用した支援イメージ】

(フェーズ2)

伴走型支援補助金を活用して専門家派遣による事業承継計画書の見直し支援を実施。

- (1) 事業承継計画策定後支援  
支援手段：個別相談会2回  
支援内容：事業承継計画書見直し、合意書の再確認、財務上の事業承継に関する課題検証

2 支援後の状況・効果

(フェーズ1)

中小企業診断士の専門家派遣による支援により、事業計画書の見直しや計画書に対する課題の洗い出しを行うことで、また、すでに締結した事業承継合意書に関する懸念事項を気づくことができた。

マーケティングの専門家派遣による支援により、商品コンセプト及びブランディングの構築、パッケージ帯の改良に繋がった。

バイヤーの専門家派遣による支援により、マーケティング戦略の知識だけでなく商談会に関する知識の習得ができた。

(フェーズ2)

今回、昨年作成した事業承継計画書の説明を改めてマネージャー（譲られる側）に説明したところ内容について認識していないこともあった。伴走支援の過程において、事業承継合意書に問題が見つかり、専門家と商工会の助言によって、気づきを与えることができ、現経営者及び経営者の子供と後継者が話し合うことになり、リスクを回避できる可能性のきっかけを作ることができた。

○今後について（目標や課題など）

食品製造小売業界の進出は初めての試みであり、継続支援が必要であると思われる。11月に開催されるFOOD STYLE Kyushu出展後に成果の精査及びバイヤーとの進捗状況などをモニタリングして、必要な支援を実施する。

事業承継については、話し合いが始まったばかりである。当人同士では話がまとまらないこともあるため、今度もヒアリングを実施して商工会及び専門家派遣制度などを活用するなど経過観察を実施する。